

令和 5 年 4 月 6 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00513

研究課題名（和文）19世紀フランス文学における「幻」の描出

研究課題名（英文）Illusions in the Nineteenth Century French Literature

研究代表者

橋本 知子（Hashimoto, Tomoko）

千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授

研究者番号：60625466

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：19世紀フランスの写実主義文学における「幻」の描出を検討するにあたり、同時代科学の諸言説からの文学言説における影響を分析する。と同時に、客観性・現実性を重視する写実主義文学において「幻」という非科学の領域にかかわる事象が重要な主題となっている点について指摘する。また写実主義文学のみならず、それに先行するロマン主義文学、および後続する自然主義文学および象徴主義文学における作品の「幻」の主題についても射程に入れることにより多角的な視野から問題を扱い、異なる文学潮流における「幻」の描出の比較、それぞれの相違点およびその背後にある思想状況を文献学的に検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

写実主義文学における科学言説の影響と、そこには収まりきれない文学表現ならではの描出のあり方を問うことにより、ことばによる不可視の現象の表現形態とその可能性について明らかにした。フロベールなど写実主義文学と、それに先行するロマン主義、および後続する自然主義文学・象徴主義文学という複数の文学潮流のあいだに通底する「幻」の描出を分析することにより、「幻」というこころのなかに立ち上がる像がいかに反復され、いかに人間の視覚を左右しているかについて、問題提起を行った。

研究成果の概要（英文）：This research aims to analyze the description of “illusions” in the 19th century French literature. I mainly examined the influence of scientific discourse on contemporary literary works, and the importance of the theme of “illusions” in the literary realism. Although this movement shows the society and human behavior in an objective and empirical way, it also contains subjective and misinterpreted perceptions of a sense (such as “illusions”), which occupy the central place in literary works of the mid-19th century France. I tried to point out this dimension by comparing “illusions” of different movements like those of Romanticism, Naturalism and Symbolism, in order to consider the multivalent aspects of this theme.

研究分野：フランス文学

キーワード：フランス文学

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、文学における幻の表出のあり方を問うというフランスで綿々とつづく学術研究に触発されて開始したものであり、そうした先行研究の蓄積を継承しつつもさらなる発展を目指したものである。フランス本国でこれまでに発表されている重要な研究としては、まず Jean-Louis Cabanès パリ第 10 大学名誉教授の *Le Négatif* (Classiques Garnier, 2009) が挙げられる。これは幻覚や無意識的想起から立ち現れる心象風景など「幻」の範疇に入る諸現象が 19 世紀中葉フランス文学においていかに中心的主題であったかを、同時代医学に照らし合わせて論じた大著である。作家ごとの個別研究とそこで展開される作品分析は鮮やかであるだけでなく、個別にとどまらず時代に通底する精神性を大胆に問うている。本研究の複数作家を横断する分析方法は、この研究から多くを学んでいる。また Jean-François Chevrier パリ国立高等美術学校教授は、*L'Hallucination artistique* (Arachnéen, 2012) の中で、19 世紀後半の文学作品だけでなく美術作品をも扱い、幻覚の描かれ方についての具体例を、膨大な図版と引用によって明確に提示している。さらに Juliette Azoulai パリ東大学准教授は *L'Âme et le corps chez Flaubert* (Classiques Garnier, 2014) の中で、19 世紀に通底する二元論(唯心論と唯物論)の関係性について、フロベールの例を通して明快に論じ、その例として登場人物の幻覚や夢想など「幻」にかかわる場面を多数引用している。また Daniel Sangsue ヌーシャテル大学教授は、その連作 *Fantômes, esprits et autres morts-vivants. Essai de pneumatologie littéraire* (José Corti, 2011) および *Vampires, fantômes et apparitions : nouveaux essais de pneumatologie littéraire* (Hermann, 2018) の中で、19 世紀文学における幽霊のテーマを概観し、本研究とも関連のある幻の問題について、思想史とのかかわりを中心に検討している。

本研究は、こうしたフランスで発表された先行研究に鑑みつつも、全体的にはこれまでの自身の研究課題を踏襲したものであり、それを継続しつつ新たな座標軸を導入し、発展させたものである。前回の研究課題においては、フランス 19 世紀前半に影響力のあった科学分野(特に、動物磁気、生氣論、精神医学)と文学作品との関係を検討するものであった。対して今回の研究課題においては、対象項として比較検討する科学言説を主に 19 世紀後半の生理学へとシフトさせ、科学性を指向した自然主義時代の文学作品、さらには象徴主義文学における「幻」の表現形態および作品上での機能について分析した。

## 2. 研究の目的

19 世紀文学における「幻」は、「幻覚」「錯覚」「幻影」など、様々な語によって描かれてきた。と同時に、そうした語を用いることなく心の中に思い描かれる像や心象を描いている作品も多く見受けられる。これは、上記のように視覚芸術が普及する社会背景にも関連している。いわば、ことばのみによってどこまで視覚性を表現できるか、という言語の可能性が賭けられているともいえる。本研究では、そうした記号表現や記号内容における差異の具体例や多様性を、作品分析によって明らかにする。また、ロマン主義文学という夢や想像力の時代から、写実主義文学や自然主義文学など実証を重んじる時代へ、さらにはその揺り

もどしとしての象徴主義文学へと移行するまさにその目まぐるしい変化の時代において、「幻を描出する」という「不可視の可視化」が文学作品に現れている事実を明らかにする。

### 3. 研究の方法

これでの研究課題においてすでに開始している Frantext など語彙検索データベースを導入したコーパス決定と、そこで選定された文学作品の読解を基に、語彙分析を出発点とした。データベースによる語彙検索は瞬時に可能だが、文学作品読解は物理的に時間を要するため、語彙分析と同時に歴史的文脈の考察もすでに始めている必要がある。つまり、作品分析と歴史的文脈の分析を同時進行的に行い、ミクロ的視点とマクロ的視点の双方からみた複眼的考察が重要になるといえる。また作家ごとに語彙の使用法は異なるため、複数の文学作品を比較検討する際には、そうした作家特有の言語表現の在り方にも留意するようこころがけるようにした。と同時に、異なる時代の異なる文学潮流にある作家同士が同様の言語表現を執る場合についても分析対象とし、その相違点の背後に見受けられる思想上の差異、および作品における意義の対照性を明らかにした。

### 4. 研究成果

本研究課題は、以下の論文を通して成果発表を行った。

- ・ « Spleen du désert. Notes sur *La Tentation de saint Antoine* de Gustave Flaubert », 『仏文研究』、第 51 号、京都大学フランス語フランス文学研究会、pp. 15-25、2020 年 10 月。
- ・ « Figure de l'éblouissement, ou comment donner forme à l'informe ? *Madame Bovary* par Vincente Minnelli », *D'après Flaubert*, Éric Dayre et Florence Godeau (sous la direction de), Éditions Kimé, p. 113-124、2021 年 5 月。
- ・ 「フィギュールとしての二月革命」(« Figures de 1848 - morgue, bal, Vésuviennes »)、『フロバール 文学と〈現代性〉の行方』、水声社、p. 139-152、2021 年 10 月。
- ・ « Folie optique et fantaisie scientifique. Optogramme dans *Claire Lenoir* de Villiers de l'Isle-Adam », 『仏文研究』、第 53 号、京都大学フランス語フランス文学研究会、p. 105-116、2022 年 10 月。

また本研究課題が対象とする時代設定とは異なるが、同様の問題提起の基に執筆した論考として、以下が挙げられる。

- ・ « État du rêve diurne. Note sur la technique narrative de Christine Brooke-Rose et d'Alain Robbe-Grillet », 『仏文研究』、第 52 号、京都大学フランス語フランス文学研究会、p. 95-103、2021 年 10 月。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Tomoko HASHIMOTO	4. 巻 53
2. 論文標題 Folie optique et fantaisie scientifique.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Etudes de Langue et Litterature Francaises	6. 最初と最後の頁 105, 116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 橋本知子	4. 巻 1
2. 論文標題 フィギュールとしての二月革命	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フロベール 文学と<現代性>の行方	6. 最初と最後の頁 139, 152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tomoko Hashimoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Figure de l' éblouissement, ou comment donner forme a l' informe ? Madame Bovary par Vincente Minnelli	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 D' apres Flaubert	6. 最初と最後の頁 113, 124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Tomoko HASHIMOTO	4. 巻 51
2. 論文標題 Spleen du desert	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Etudes de Langue et Litterature Francaises	6. 最初と最後の頁 15, 25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/265026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------